

ICSM 2012 での海外論文発表

目で見ると
海外論文発表

南 拓也*

Report from ICSM 2012

Key Words : Singlet Fission, Open-shell singlet molecules,
Organic Photovoltaic cell

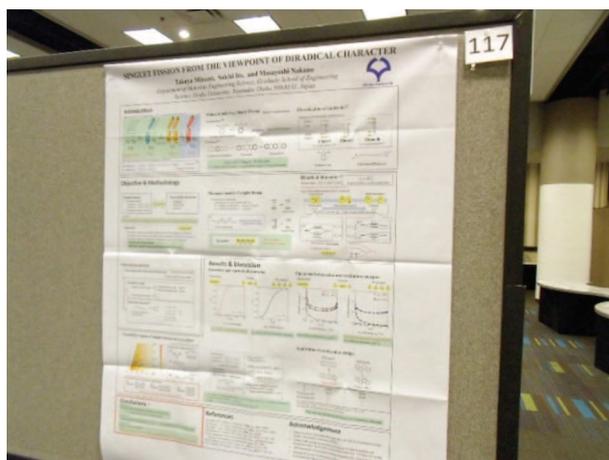
2012年7月8日から13日にかけて米国ジョージア州アトランタで開催された International Conference of Synthetic Metals 2012 (ICSM2012) に参加しました。本学会は有機伝導体や有機半導体分野に関する会議であり、有機エレクトロニクスや有機フォトンクスに関する合成、分析、計算モデリング、デバイス設計の多岐にわたる最先端研究に関する議論が行われます。その中でも特に今回は、有機太陽電池研究が盛んに行われる米国での開催、そして有機半導体分子の理論計算で有名な J. Brédas 博士が主催であることから、高効率有機太陽電池の実現に向けた分子設計やデバイス設計に関する研究発表が数多く見受けられました。

招待講演では、ノーベル賞受賞者である A. Heeger 博士の講演をはじめ、有機薄膜太陽電池の大家である S. Forrest 博士、縮環炭化水素分子の合成で有名な K. Müllen 博士らの講演を聞くことができ、またとない貴重な経験をすることができました。

本学会で、私は、シングレットフィッションと呼ばれる現象を起こす分子設計指針に関する理論研究について発表しました。この現象は、従来以上の高効率有機太陽電池を実現する新規機構として注目を集めています。質疑応答では、モデルの妥当性や実験との対応、私が提案した新規分子の熱力学的安定性等に関するご質問をいただきました。私自身の専

門は理論化学ですが、今回の発表では、海外の実験研究者の方々をはじめ様々な視点からのご意見もいただくことができ、大変勉強になりました。

本会議で有機太陽電池研究の最先端研究を聞き、その現状や課題について知ることができました。この経験を基に、私自身の研究をより一層深めていけるよう精進したいと思います。



発表ポスター



懇親会会場



*Takuya MINAMI

1986年3月生
大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成
専攻化学工学領域博士前期課程修了
(2010年)
現在、同領域中野研究室博士後期課程3年
TEL : 06-6850-6266
FAX : 06-6850-6267
E-mail : minami@cheng.es.osaka-u.ac.jp